校異源氏物語・ははきぎ

ひかる源氏名のみこと　くしういひけたれたまふとかおほかなるにいとゝかゝるすきことゝもをするゑの世にもきゝつたへてかろひたる名をやなかさむとしのひ給けるかくろへことをさへかたりつたへけむ人のものいひさかなさよさるはいといたく世をはゝかりまめたち給けるほとなよひかにをかしきことはなくてかたのゝ少将にはわらはれ給けむかしまた中将なとにものし給しときは内にのみさふらひようし給て大殿にはたえ　くまかて給ふしのふのみたれやとうたかひきこゆる事もありしかとさしもあためきめなれたるうちつけのすき　くしさなとはこのましからぬ御本上にてまれにはあなかちにひきたかへ心つくしなることを御心におほしとゝむるくせなむあやにくにてさるましき御ふるまひもうちましりけるなかあめはれまなきころ内の御ものいみさしつゝきていとゝなかゑさふらひ給を大殿にはおほつかなくうらめしくおほしたれとよろつの御よそひなにくれとめつらしきさまにてうしいて給つゝ御むすこの君たちたゝこの御とのゑところに宮つかへをつとめ給ふ宮はらの中将はなかにしたしくなれきこえ給てあそひたはふれをも人よりは心やすくなれ　くしくふるまひたり右のおとゝのいたはりかしつき給ふすみかはこの君もいとものうくしてすきかましきあた人なりさとにてもわかかたのしつらひまはゆくして君のいていりし給にうちつれきこえ給つゝよるひるかくもむをもあそひをももろともにしておさ　くたちをくれすいつくにてもまつはれきこえ給ふほとにをのつからかしこまりもえをかす心のうちにおもふこともかくしあへすなんむつれきこえ給けるつれ

　くとふりくらしてしめやかなるよひの雨に殿上にもおさ　く人すくなに御とのゑ所もれいよりはのとやかなる心ちするにおほとなふらちかくてふみともなとみ給ちかきみつしなるいろ　くのかみなるふみともをひきいてゝ中将わりなくゆかしかれはさりぬへきすこしはみせむかたわなるへきもこそとゆるし給はねはそのうちとけてかたはらいたしとおほされんこそゆかしけれをしなへたるおほかたのはかすならねとほと　くにつけてかきかはしつゝもみ侍なんをのかしゝうらめしきおり　くまちかほならむゆふくれなとのこそみ所はあらめとゑんすれはやむことなくせちにかくし給へきなとはかやうにおほそうなるみつし

なとにうちをきちらし給ふへくもあらすふかくとりをき給へかめれは二のまちの心やすきなるへしかたはしつゝみるによくさま　くなるものともこそ侍けれとて心あてにそれかかれかなととふなかにいひあつるもありもてはなれたることをも思ひよせてうたかふもをかしとおほせとことすくなにてとかくまきらはしつゝとりかくし給つそこにこそおほくつとへ給らめすこしみはやさてなんこのつしも心よくひらくへきとのたまへは御らむし所あらむこそかたく待らめなときこえ給ふついてに女のこれはしもとなんつくましきはかたくもあるかなとやう　くなむみ給へしるたゝうはへはかりのなさけにてはしりかきおりふしのいらへ心えてうちしなとはかりはすいふんによろしきもおほかりとみ給れとそもまことにそのかたをとりいてんえらひにかならすもるましきはいとかたしやわか心えたる事はかりををのかしゝ心をやりて人をはおとしめなとかたはらいたき事おほかりおやなとたちそひもてあかめておひさきこもれるまとのうちなるほとはたゝかたかとをきゝつたへて心をうこかすこともあめりかたちをかしくうちおほときわかやかにてまきるゝことなきほとはかなきすさひをも人まねに心をいるゝ事もあるにをのつからひとつゆへつけてしいつる事もありみる人をくれたるかたをはいひかくしさてありぬへきかたをはつくろひてまねひいたすにそれしかあらしとそらにいかゝはをしはかりおもひくたさむまことかとみもてゆくにみをとりせぬやうはなくなんあるへきとうめきたるけしきもはつかしけなれはいとなへてはあらねと我おほしあはすることやあらむうちほをえみてそのかたかともなき人はあらむやとの給へはいとさはかりならむあたりにはたれかはすかされより侍らむとる方なくくちおしきゝはというなりとおほゆはかりすくれたるとはかすひとしくこそ侍らめ人のしなたかくむまれぬれは人にもてかしつかれてかくるゝ事おほくしねんにそのけはひこよなかるへし中のしなになん人の心　くをのかしゝのたてたるおもむきもみえてわかるへきことかた　くおほかるへきしものきさみといふきはになれはことにみゝたゝすかしとていとくまなけなるけしきなるもゆかしくてそのしな　くやいかにいつれをみつのしなにをきてかわくへきもとのしなたかくむまれなから身はしつみくらゐみしかくて人けなき又なを人のかむたちめなとまてなりのほりわれはかほにて家のうちをかさり人におとらしとおもへるそのけちめをはいかゝわくへきととひ給ほとに左のむまのかみ藤式部のそう御物いみにこもらむとてまいれり世のすきものにてものよくいひとをれるを中将まちとりてこのしな　くをわきまへさためあらそふいときゝにくき事おほかりなりのほれとももとよりさるへきす

ちならぬは世人のおるへることもさはいへとなをことなり又もとはやむことなきすちなれと世にふるたつきすくなく時世にうつろひておほえおとろえぬれは心は心として事たらすわろひたる事ともいてくるわさなめれはとり　くにことはりてなかのしなにそをくへきすりやうといひて人の国のことにかゝつらひいとなみてしなさたまりたる中にも又きさみ　くありて中のしなのけしうはあらぬえりいてつへきころほひ也なま　くの上達部よりも非参議の四位ともの世のおほえくちおしからすもとのねさしいやしからぬやすらかに身をもてなしふるまひたるいとかはらかなりや家のうちにたらぬことなとはたなかめるまゝにはふかすまはゆきまてもてかしつけるむすめなとのおとしめかたくおひいつるもあまたあるへし宮つかへにいてたちておもひかけぬさいはひとりいつるためしともおほかりかしなといへはすへてにきはゝしきによるへきなむなりとてわらひ給ふをこと人のいはむやうに心えすおほせらると中将にくむもとのしな時世のおほえうちあひやむことなきあたりのうち　くのもてなしけはひをくれたらむはさらにもいはすなにをしてかくおひいてけむといふかひなくおほゆへしうちあひてすくれたらむもことはりこれこそはさるへきことゝおほえてめつらかなる事と心もおとろくましなにかしかをよふへきほとならねはかみかかみはうちをき侍ぬさてよにありと人にしられすさひしくあはれたらむむくらのかとにおもひのほかにらうたけならん人のとちられたらんこそかきりなくめつらしくはおほえめいかてはたかゝりけむとおもふよりたかへることなんあやしく心とまるわさなるちゝのとしおひものむつかしけにふとりすきせうとのかほにくけにおもひやりことなる事なきねやのうちにいといたくおもひあかりはかなくしいてたることわさもゆへなからすみえたらむかたかとにてもいかゝ思ひのほかにをかしからさらむすくれてきすなきかたのえらひにこそをよはさらめさるかたにてすてかたきものをはとて式部をみやれはわかいもうとともとのよろしきゝこえあるをおもひての給にやとや心うらむものもいはすいてやかみのしなとおもふにたにかたけなるよをと君はおほすへししろき御そとものなよゝかなるになをしはかりをしとけなくきなし給てひもなともうちすてゝそひふし給へる御ほかけいとめてたく女にてみたてまつらまほしこの御ためにはかみかかみをえりいてゝも猶あくましくみえ給ふさま　くの人のうへともをかたりあはせつゝおほかたの世につけてみるにはとかなきもわかものとうちたのむへきをえらんにおほかる中にもえなんおもひさたむましかりけるおのこの大やけにつかうまつりはか　くしき世のかためとなるへきもまことのうつはものとなるへきをと

りいたさむにはかたかるへしかしされとかしこしとてもひとりふたり世中をまつりこちしるへきならねはかみはしもにたすけられしもはかみになひきて事ひろきにゆつろふらんせはき家のうちのあるしとすへき人ひとりをおもひめくらすにたらはてあしかるへき大事ともなむかたかたおほかるとあれはかゝりあふさきるさにてなのめにさてもありぬへき人のすくなきをすき　くしき心のすさひにて人のありさまをあまたみあはせむのこのみならねとひとへにおもひさたむへきよるへとすはかりにおなしくはわかちからいりをしなをしひきつくろふへき所なく心にかなふやうにもやとえりそめつる人のさたまりかたきなるへしかならすしもわかおもふにかなはねとみそめつる契はかりをすてかたく思ひとまる人はものまめやかなりとみえさてたもたるゝ女のためも心にくゝをしはからるゝなりされとなにか世のありさまをみたまへあつむるまゝに心にをよはすいとゆかしき事もなしや君達のかみなき御えらひにはましていかはかりの人かはたくひ給はんかたちきたなけなくわかやかなるほとのをのかしゝはちりもつかしと身をもてなしふみをかけとおほとかにことえりをしすみつきほのかに心もとなくおもはせつゝ又さやかにもみてしかなとすへなくまたせわつかなるこゑきくはかりいひよれといきのしたにひきいれことすくなゝるかいとよくもてかくすなりけりなよひかに女しとみれはあまりなさけにひきこめられてとりなせはあためくこれをはしめのなむとすへしことかなかになのめなるましき人のうしろみのかたはものゝあはれしりすくしはかなきついてのなさけありをかしきにすゝめるかたなくてもよかるへしとみえたるに又まめ　くしきすちをたてゝみゝはさみかちにひさうなき家とうしのひとへにうちとけたるうしろみはかりをしてあさゆふのいていりにつけてもおほやけわたくしの人のたゝすまひよきあしき事のめにもみゝにもとまるありさまをうとき人にわさとうちまねはんやはちかくてみん人のきゝわきおもひしるへからむにかたりもあはせはやとうちもゑまれなみたもさしくみもしはあやなきおほやけはらたゝしく心ひとつにおもひあまる事なとおほかるをなにゝかはきかせむとおもへはうちそむかれて人しれぬ思いてわらひもせられあはれともうちひとりこたるゝになに事そなとあはつかにさしあふきゐたらむはいかゝはくちおしからぬたゝひたふるにこめきてやはらかならむ人をとかくひきつくろひてはなとかみさらん心もとなくともなをしところある心地すへしけにさしむかひてみむほとはさてもらうたきかたにつみゆるしみるへきをたちはなれてさるへきことをもいひやりおりふしにしいてむわさのあた事にもまめことにもわか心とおもひうる事なくふかきいた

りなからむはいとくちおしくたのもしけなきとかやなをくるしからむつねはすこしそは　くしく心つきなき人のおりふしにつけていてはへするやうもありかしなとくまなきものいひもさためかねていたくうちなけくいまはたゝしなによらしかたちをはさらにもいはしいとくちおしくねちけかましきおほえたになくはたゝひとへにものまめやかにしつかなる心のおもむきならむよるへをそつゐのたのみ所には思ひをくへかりけるあまりゆへよし心はせうちそへたらむをはよろこひにおもひすこしをくれたるかたあらむをもあなかちにもとめくはへしうしろやすくのとけき所たにつよくはうはへのなさけはをのつからもてつけつへきわさをやえんにものはちしてうらみいふへきことをもみしらぬさまにしのひてうへはつれなくみさをつくりこゝろひとつに思あまる時はいはんかたなくすこきことのはあはれなるうたをよみをきしのはるへきかたみをとゝめてふかき山さと世はなれたるうみつらなとにはひかくれぬるおりかしわらはに侍しとき女房なとの物かたりよみしをきゝていとあはれにかなしく心ふかきことかなと涙をさへなんおとし侍しいま思にはいとかる　くしくことさらひたる事也心さしふかゝらんおとこをゝきてみるめのまへにつらきことありとも人の心をみしらぬやうにゝけかくれて人をまとはし心をみんとするほとになかき世の物おもひになるいとあちきなき事也心ふかしやなとほめたてられてあはれすゝみぬれはやかてあまになりぬかし思ひたつほとはいと心すめるやうにて世にかへりみすへくもおもへらすいてあなかなしかくはたおほしなりにけるよなとやうにあひしれる人きとふらひひたすらにうしともおもひはなれぬ男きゝつけて涙おとせはつかふ人ふるこたちなと君の御心はあはれなりけるものをあたら御身をなといふみつからひたひかみをかきさくりてあへなく心ほそけれはうちひそみぬかししのふれと涙こほれそめぬれはおり　くことにえねむしえすくやしきことおほかめるに仏も中　く心きたなしとみ給つへしにこりにしめるほとよりもなまうかひにてはかへりてあしきみちにもたゝよひぬへくそおほゆるたえぬすくせあさからてあまにるなさてたつねとりたらんもやかてそのおもひいてうらめしきふしあらさらんやあしくもよくもあひそひてとあらむおりもかゝらんきさみをもみすくしたらん中こそ契ふかくあはれならめわれも人もうしろめたく心をかれしやは又なのめにうつろふかたあらむ人をうらみてけしきはみそむかんはたおこかましかりなん心はうつろふかたありともみそめし心さしいとおしくおもはゝさるかたのよすかにおもひてもありぬへきにさやうならむたちろきにたへぬへきわさなりすへてよろつの事なたらかにゑんすへきことをはみし

れるさまにほのめかしうらむへからむふしをもにくからすかすめなさはそれにつけてあはれもまさりぬへしおほくはわか心もみる人からおさまりもすへしあまりむけにうちゆるへみはなちたるも心やすくらうたきやうなれとをのつからかろきかたにそおほえ侍かしつなかぬ舟のうきたるためしもけにあやなしさは侍らぬかといへは中将うなつくさしあたりてをかしともあはれとも心にいらむ人のたのもしけなきうたかひあらむこそ大事なるへけれわか心あやまちなくてみすくさはさしなをしてもなとかみさらむとおほえたれとそれさしもあらしともかくもたかふへきふしあらむをのとやかにみしのはむよりほかにます事あるましかりけりといひてわかいもうとの姫君はこのさためにかなひ給へりとおもへは君のうちねふりてことはませ給はぬをさう　くしく心やましとおもうむまのかみ物さためのはかせになりてひゝらきゐたり中将はこのことはりきゝはてむと心いれてあへしらひゐ給へりよろつの事によそへておほせきのみちのたくみのよろつの物を心にまかせてつくりいたすもりむしのもてあそひものゝその物とあともさたまらぬはそはつきされはみたるもけにかうもしつへかりけりと時につけつゝさまをかへていまめかしきにめうつりてをかしきもあり大事としてまことにうるはしき人のてうとのかさりとするさたまれるやうある物をなんなくしいつる事なんなをまことのものゝ上手はさまことにみえわかれ侍又ゐところに上手おほかれとすみかきにえらはれてつきつきにさらにおとりまさるけちめふとしもみえわかれすかゝれと人のみをよはぬほうらいの山あらうみのいかれるいほのすかたから国のはけしきけたものゝかたちめにみえぬおにのかほなとのおとろ　くしくつくりたる物は心にまかせてひときはめおとろかしてしちにはにさらめとさてありぬへし世のつねの山のたゝすまひ水のなかれめにちかき人の家ゐありさまけにとみえなつかしくやはらいたるかたなとをしつかにかきませてすくよかならぬ山のけしきこふかくよはなれてたゝみなしけちかきまかきのうちをはその心しらひをきてなとをなん上手はいといきほひことにわろ物はおよはぬ所おほかめるてをかきたるにもふかき事はなくてこゝかしこのてんなかにはしりかきそこはかとなくけしきはめるはうちみるにかと　くしくけしきたちたれとなをまことのすちをこまやかにかきえたるはうはへのふてきえてみゆれといまひとたひとりならへてみれは猶しちになんよりけるはかなき事たにかくこそ侍れまして人の心の時にあたりてけしきはめらむみるめのなさけをはえたのむましくおもふ給へて侍るそのはしめの事すき　くしくとも申侍らむとてちかくゐよれは君もめさまし給ふ中将いみしくしんしてつらつえをつ

きてむかひゐ給へりのりの師の世のことはりときゝかせむ所の心ちするもかつはをかしけれとかゝるついてはをの　くむつこともえしのひとゝめすなんありけるはやうまたいと下らうに侍し時あはれとおもふ人侍ききこえさせつるやうにかたちなといとまほにも侍らさりしかはわかきほとのすき心にはこの人をとまりにともおもひとゝめ侍らすよるへとは思ひなからさう　くしくてとかくまきれ侍しをものゐんしをいたくし侍しかは心つきなくいとかゝらておいらかならましかはとおもひつゝあまりいとゆるしなくうたかひ侍しもうるさくてかくかすならぬ身をみもはなたてなとかくしもおもふらむと心くるしきおり　くも侍てしねんに心おさめらるゝやうになん侍しこの女のあるやうもとよりおもひいたらさりける事にもいかてこの人のためにはとなきてをいたしをくれたるすちの心をもなをくちおしくはみえしとおもひはけみつゝとにかくにつけてものまめやかにうしろみつゆにても心にたかふことはなくもかなと思へりしほとにすゝめるかたと思ひしかととかくになひきてなよひゆきみにくきかたちをもこの人にみやうとまれんとわりなくおもひつくろひうとき人にみえはおもてふせにや思はんとはゝかりはちてみさをにもてつけてみなるゝまゝに心もけしうはあらす侍しかとたゝこのにくきかたひとつなん心おさめす侍しそのかみおもひ侍しやうかうあなかちにしたかひをちたる人なめりいかてこるはかりのわさしておとしてこのかたもすこしよろしくもなりさかなさもやめむとおもひてまことにうしなともおもひてたえぬへきけしきならはかはかりわれにしたかふ心ならはおもひこりなむと思給へえてことさらになさけなくつれなきさまをみせてれいのはらたちゐんするにかくおそましくはいみしき契りふかくともたえて又みしかきりとおもはゝかくわりなきものうたかひはせよゆくさきなかくみえむとおもはゝつらきことありともねんしてなのめにおもひなりてかゝる心たにうせなはいとあはれとなん思ふへき人なみ　くにもなりすこしおとなひんにそへてもまたならふ人なくあるへきやうなとかしこくおしへたつるかなと思給へて我たけくいひそし侍にすこしうちわらひてよろつにみたてなく物けなきほとをみすくして人かすなる世もやとまつかたはいとのとかにおもひなされて心やましくもあらすつらき心をしのひておもひなをらんおりをみつけんととし月をかさねんあいなたのみはいとくるしくなんあるへけれはかたみにそむきぬへききさみになむあるとねたけにいふにはらたゝしくなりてにくけなる事ともをいひはけまし侍に女もえおさめぬすちにておよひひとつをひきよせてくひて侍りしをおとろ　くしくかこちてかゝるきすさへつきぬれはいよ　くましらひをすへ

きにもあらすはつかしめ給めるつかさくらゐいとゝしくなにゝつけてかは人めかん世をそむきぬへき身なめりなといひおとしてさらはけふこそはかきりなめれとこのおよひをかゝめてまかてぬ

てをおりてあひみし事をかそふれはこれひとつやは君かうきふしえうらみしなといひ侍れはさすかにうちなきて

うきふしを心ひとつにかそへきてこや君かてをわかるへきおりなといひしろひ侍しかとまことにはかはるへきことゝも思給へすなからひころふるまてせうそこもつかはさすあくかれまかりありくにりむしのまつりのてうかくに夜ふけていみしうみそれふる夜これかれまかりあかるゝ所にておもひめくらせは猶家ちと思はむかたは又なかりけり内わたりのたひねすさましかるへくけしきはめるあたりはそゝろさむくやとおもふ給へられしかはいかゝおもへるとけしきもみかてら雪をうちはらひつゝなま人わるくつめくはるれとさりともこよひひころのうらみはとけなむと思給へしに火ほのかにかへにそむけなへたるきぬとものあつこへたるおほいなるこにうちかけてひきあくへきものゝかたひらなとうちあけてこよひはかりやとまちけるさまなりされはよと心おこりするにさうしみはなしさるへき女房ともはかりとまりておやの家にこのよさりなんわたりぬるとこたへ侍りえんなる歌もよますけしきはめるせうそこもせていとひたやこもりになさけなかりしかはあへなき心ちしてさかなくゆるしなかりしも我をうとみねとおもふかたの心やありけむとさしもみ給へさりしことなれと心やましきまゝにおもひ侍しにきるへき物つねよりも心とゝめたる色あひしさまいとあらまほしくてさすかにわかみすてん後をさへなんおもひやりうしろみたりしさりともたえておもひはなつやうはあらしと思ふ給へてとかくいひ侍しをそむきもせすとたつねまとはさむともかくれしのひすかゝやかしからすいらへつゝたゝありしなからはえなんみすくすましきあらためてのとかにおもひならはなんあひみるへきなといひしをさりともえおもひはなれしと思給へしかはししはしこらさむの心にてしかあらためむともいはすいたくつなひきてみせしあひたにいといたくおもひなけきてはかなくなり侍にしかはたはふれにくゝなむおほえ侍しひとへにうちたのみたらむかたはさはかりにてありぬへくなんおもひ給へいてらるゝはかなきあた事をもまことの大事をもいひあはせたるにかひなからすたつた姫といはむにもつきなからすたなはたのてにもおとるましくそのかたもくしてうるさくなん侍しとていとあはれとおもひいてたり中将そのたなはたのたちぬふかたをのとめてなかき契にそあえましけにそのたつた姫のにしきに

はまたしくものあらしはかなき花紅葉といふもおりふしの色あひつきなくはか
　くしからぬは露のはえなくきえぬるわさなりさあるによりかたき世とはさた
めかねたるそやといひはやし給ふさて又おなしころまかりかよひしところは人
もたちまさり心はせまことにゆへありとみえぬへくうちよみはしりかきかいひ
くつまをとてつきくちつきみなたと　くしからすみきゝわたり侍きみるめもこ
ともなく侍しかはこのさかなものをうちとけたるかたにて時　くかくろへみ侍
しほとはこよなく心とまり侍きこの人うせて後いかゝはせむあはれなからもす
きぬるはかひなくてしは　くまかりなるゝにはすこしまはゆくえんにこのまし
き事はめにつかぬ所あるにうちたのむへくはみえすかれ　くにのみみせ侍程に
しのひて心かはせる人そありけらし神無月のころをひ月おもしろかりし夜うち
よりまかて侍にあるうへ人きあひてこの車にあひのりて侍れは大納言の家にま
かりとまらむとするにこの人いふやうこよひ人まつらむやとなんあやしく心く
るしきとてこの女の家はたよきぬみちなりけれはあれたるくつれより池の水か
けみえて月たにやとるすみかをすきむもさすかにてをり侍ぬかしもとよりさる
心をかはせるにやありけんこの男いたくすゝろきてかとちかきらうのすのこた
つものにしりかけてとはかり月をみるきくいとおもしろくうつろひわたり風に
きほへるもみちのみたれなとあはれとけにみえたりふところなりけるふえとり
いてゝふきならしかけもよしなとつゝしりうたふほとによくなるわこむをしら
へとゝのへたりけるうるはしくかきあはせたりしほとけしうはあらすかしりち
のしらへは女の物やはらかにかきならしてすのうちよりきこえたるもいまめき
たるものゝこゑなれはきよくすめる月におりつきなからす男いたくめてゝすの
もとにあゆみきてにはのもみちこそふみわけたるあともなけれなとねたますき
くをおりて
　ことのねも月もえならぬやとなからつれなき人をひきやとめけるわろかめ
りなといひていまひとこゑきゝはやすへき人のある時てなのこひ給そなといた
くあされかゝれは女こゑいたうつくろひて
　木からしに吹あはすめるふえのねをひきとゝむへきことのはそなきとなま
めきかはすににくゝなるをもしらて又さうのことをはむしきてうにしらへてい
まめかしくかいひきたるつまをとかとなきにはあらねとまはゆき心地なんし侍
したゝ時　くうちかたらふみやつかへ人なとのあくまてされはみすきたるはさ
てもみるかきりはをかしくもありぬへし時　くにてもさる所にてわすれぬよす
かとおもふ給へんにはたのもしけなくさしすくいたりと心をかれてその夜の事

にことつけてこそまかりたえにしかこのふたつのことをおもふ給へあはするに
わかき時の心にたに猶さやうにもていてたる事はいとあやしくたのもしけなく
おほえ侍きいまよりのちはましてさのみなんおもふ給へらるへき御心のまゝに
おらはおちぬへきはきの露ひろはゝきえなんとみる玉さゝのうへのあられなと
のえんにあへかなるすき　くしさのみこそをかしくおほさるらめいまさりとも
なゝとせあまりかほとにおほしゝりはへなんなにかしかいやしきいさめにてす
きたはめらむ女に心をかせ給へあやまちしてみむ人のかたくなゝる名をもたて
つへき物なりといましむ中将れいのうなつく君すこしかたゐみてさる事とはお
ほすへかめりいつかたにつけても人わるくはしたなかりけるみ物かたりかなと
てうちわらひおはさうす中将なにかしはしれものゝ物かたりをせむとていとし
のひてみそめたりし人のさてもみつへかりしけはひなりしかはなからふへきも
のとしもおもふ給へさりしかとなれゆくまゝにあはれとおほえしかはたえ　く
わすれぬ物に思給へしをさはかりになれはうちたのめるけしきもみえきたのむ
につけてはうらめしとおもふ事もあらむと心なからおほゆるおり　くも侍しを
みしらぬやうにてひさしきとたえをもかうたまさかなる人ともおもひたらすた
ゝあさゆふにもてつけたらむありさまにみえて心くるしかりしかはたのめわた
る事なともありきかしおやもなくいと心ほそけにてさらはこの人こそはとこと
にふれておもへるさまもらうたけなりきかうのとけきにおたしくてひさしくま
からさりしころこのみ給ふるわたりよりなさけなくうたてある事をなんさるた
よりありてかすめいはせたりける後にこそきゝ侍しかさるうき事やあらむとも
しらす心にわすれすなからせうそこなともせてひさしく侍しにむけにおもひし
ほれてこゝろほそかりけれはおさなきものなともありしにおもひわつらひてな
てしこの花をおりておこせたりしとてなみたくみたりさてそのふみのことはゝ
とゝひ給へはいさやことなる事もなかりきや

　山かつのかきほあるともおり　くにあはれはかけよなてしこの露おもひい
てしまゝにまかりたりしかはれいのうらもなきものからいとものおもひかほに
てあれたる家の露しけきをなかめてむしのねにきほへるけしきむかし物かたり
めきておほえ侍し

　さきましる色はいつれとわかねとも猶常夏にしくものそなきやまとなてし
こをはさしをきてまつちりをたにになとおやの心をとる

　うちはらふ袖も露けきとこなつにあらし吹そふ秋もきにけりとはかなけに
いひなしてまめ　くしくうらみたるさまもみえす涙をもらしおとしてもいとは

つかしくつゝましけにまきらはしかくしてつらきをもおもひしりけりとみえむ
はわりなくくるしきものと思ひたりしかは心やすくて又とたえをき侍しほとに
あともなくこそかきけちてうせにしかまた世にあらははかなきよにそさすらふ
らんあはれとおもひしほとにわつらはしけにおもひまつはすけしきみえましか
はかくもあくからさゝらましこよなきとたえをかすさるものにしなしてなかく
みるやうも侍なましかのなてしこのらうたく侍しかはいかてたつねむとおもひ
給るをいまもえこそきゝつけ侍らねこれこそのたまへるはかなきためしなめれ
つれなくてつらしとおもひけるもしらてあはれたえさりしもやくなきかたおも
ひなりけりいまやう　くわすれゆくきはにかれはたえしもおもひはなれすおり
　く人やりならぬむねこかるゝゆふへもあらむとおほえ侍これなんえたもつま
しくたのもしけなきかたなりけるされはかのさかな物もおもひいてあるかたに
わすれかたけれとさしあたりてみんにはわつらはしくよくせすはあきたき事も
ありなんやことのねすゝめけんかと　くしさもすきたるつみおもかるへしこの
心もとなきもうたかひそふへけれはいつれとつゐにおもひさためすなりぬるこ
そ世中やたゝかくこそとり　くにくらへくるしかるへきこのさま　くのよきか
きりをとりくしなんすへきくさはひませぬ人はいつこにかはあらむきち上天女
をおもひかけむとすれはほうけつきくすしからむこそ又わひしかりぬへけれと
てみなわらひぬ式部か所にそけしきある事はあらむすこしつゝかたり申せとせ
めらるしもかしものなかにはなてう事かきこしめし所侍らむといへと頭の君ま
めやかにおそしとせめ給へはなに事をとり申さんとおもひめくらすにまた文章
の生に侍し時かしこき女のためしをなんみ給へしかのむまのかみの申給へるや
うにおほやけことをもいひあはせわたくしさまの世にすまふへき心をきてをお
もひめくらさむかたもいたりふかくさえのきはなま　くのはかせはつかしくす
へてくちあかすへくなん侍らさりしそれはあるはかせのもとにかくもんなとし
侍とてまかりかよひしほとにあるしのむすめともおほかりときゝ給てはかなき
ついてにいひよりて侍しをおやきゝつけてさかつきもていてゝわかふたつのみ
ちうたふをきけとなんきこえこち侍しかとおさ　くうちとけてもまからすかの
おやの心をはゝかりてさすかにかゝつらひ侍しほとにいとあはれにおもひうし
ろみねさめのかたらひにも身のさへつきおほやけにつかうまつるへきみち　く
しきことをおしへていときよけにせうそこふみにもかんなといふものかきませ
すむへ　くしくいひまはし侍にをのつからえまかりたえてそのものを師として
なんわつかなるこしおれふみつくる事なとならひ侍しかはいまにそのおんはわ

すれ侍らねとなつかしきさいしとうちたのまむにはむさいの人なまわろならむ
ふるまひなとみえむにはつかしくなんみえ侍しまいて君達の御ためはか　くし
くしたたかなる御うしろみはなにゝかせさせ給はんはかなしくちおしとかつみ
つゝもたゝ我心につきすくせのひくかた侍めれはおのこしもなんしさひなきも
のは侍めると申せはのこりをいはせむとてさて　くをかしかりける女かなとす
かい給を心はえなからはなのわたりおこつきてかたりなすさていとひさしくま
からさりしにものゝたよりにたちよりて侍れはつねのうちとけゐたるかたには
侍らて心やましきものこしにてなんあひて侍るふすふるにやとおこかましくも
又よきふしなりともおもひ給るにこのさかし人はたかる　くしきものゐんしす
へきにもあらす世のたうりをおもひとりてうらみさりけりこゐもはやりかにて
いふやう月ころふひやうおもきにたえかねてこくねちのさうやくをふくしてい
とくさきによりなんえたいめむたまはらぬまのあたりならすともさるへからん
さうしらはうけ給はらむといとあはれにむへ　くしくいひ侍いらへになにとか
はたゝうけ給はりぬとてたちいて侍にさうさうしくやおほえけんこのかうせな
ん時にたちより給へとたかやかにいふをきゝすくさむもいとおししはしやすら
ふへきにはた侍らねはけにそのにほひさへはなやかにたちそへるもすへなくて
にけめをつかひて
　さゝかにのふるまひしるきゆふくれにひるますくせといふかあやなさいか
なる事つけそやといひもはてすはしりいて侍ぬるにおひて
　あふことの夜をしへたてぬ中ならはひるまもなにかまはゆからましさすか
にくちとくなとは侍きとしつ　くと申せは君達あさましとおもひてそら事とて
わらひ給ふいつこのさる女かあるへきおひらかにおにとこそむかひゐたらめむ
くつけき事とつまはしきをしていはむかたなしと式部をあはめにくみてすこし
よろしからむ事を申せとせめ給へとこれよりめつらしき事はさふらひなんやと
てをりすへて男も女もわろものはわつかにしれるかたの事をのこりなくみせつ
くさむとおもへるこそいとおしけれ三史五経みち　くしきかたをあきらかにさ
とりあかさんこそあいきやうなからめなとかは女といはんからに世にある事の
おほやけわたくしにつけてむけにしらすいたらすしもあらむわさとならひまね
はねとすこしもかとあらむ人のみゝにもめにもとまる事しねんにおほかるへし
さるまゝにはまむなをはしりかきてさるましきとちの女ふみになかはすきてか
きすくめたるあなうたてこの人のたをやかならましかはとみえたり心ちにはさ
しも思はさらめとをのつからこは　くしきこゐによみなされなとしつゝことさ

らひたり上らうのなかにもおほかる事そかしうたよむとおもへる人のやかてうたにまつはれをかしきふる事をもはしめよりとりこみつゝすさましきおり　く
よみかけたるこそものしき事なれ返しせねはなさけなしえせさらむ人ははしたなからんさるへきせちゑなと五月のせちにいそきまいるあしたなにのあやめもおもひしつめられぬにえならぬねをひきかけ九日のえんにまつかたき詩の心を思めくらしいとまなきおりにきくの露をかこちよせなとやうのつきなきいとなみにあはせさならてもをのつからけにのちにおもへはをかしくもあはれにもあへかりける事のそのおりにつきなくめにとまらぬなとをおしはからすよみいてたる中　く心をくれてみゆよろつの事になとかはさてもとおほゆるおりから時
　くおもひわかぬはかりの心にてはよしはみなさけたゝさらむなんめやすかるへきすへて心にしれらむ事をもしらすかほにもてなしいはまほしからむ事をもひとつふたつのふしはすくすへくなんあへかりけるといふにも君は人ひとりの御ありさまを心のうちにおもひつゝけ給これにたらす又さしすきたる事なくものし給けるかなとありかたきにもいとゝむねふたかるいつかたによりはつともなくはて　くはあやしき事ともになりてあかし給つからうしてけふは日のけしきもなをれりかくのみこもりさふらひ給も大殿の御心いとおしけれはまかて給へりおほかたのけしき人のけはひもけさやかにけたかくみたれたる所ましらす猶これこそはかの人ゝのすてかたくとりいてしまめ人にはたのまれぬへけれとおほすものからあまりうるはしき御ありさまのとけかたくはつかしけにおもひしつまり給へるをさう　くしくて中納言の君中つかさなとやうのをしなへたらぬわか人ともにたはふれ事なとの給つゝあつさにみたれ給へる御ありさまをみるかひありとおもひきこえたりおとゝもわたり給てかくうちとけ給へれはみ木丁へたてゝおはしまして御ものかたりきこえ給をあつきにとにかみ給へは人ゝわらふあなかまとてけうそくによりおはすいとやすらかなる御ふるまひなりやくらくなるほとにこよひなかゝみうちよりはふたかりて侍けりときこゆさかしれいはいみ給ふかたなりけり二条院にもおなしすちにていつくにかたかへんいとなやましきにとておほとのこもれりいとあしき事なりとこれかれきこゆきのかみにてしたしくつかうまつる人の中河のわたりなる家なんこのころ水せきいれてすゝしきかけに侍ときこゆいとよかなりなやましきにうしなからひきいれつへからむ所をとの給しのひ　くの御方たかへ所はあまたありぬへけれとひさしくほとへてわたり給へるにかたふたけてひきたかへほかさまへとおほさんはいとおしきなるへしきのかみにおほせ事給へはうけ給なからしりそきていよの

かみのあそむの家につゝしむ事侍て女房なんまかりうつれるころにてせはき所に侍れはなめけなることや侍らむとしたになけくをきゝ給てその人ちかゝらむなんうれしかるへき女とをきたひねはものおそろしき心ちすへきをたゝその木丁のうしろにとの給へはけによろしきおまし所にもとて人はしらせやるいとしのひてことさらにこと　くしからぬ所をといそきいて給へはおとゝにもきこえ給はす御ともにもむつましきかきりしておはしましぬにはかにとわふれと人もきゝいれす心殿の東おもてはらひあけさせてかりそめの御しつらひしたり水の心はへなとさるかたにをかしくしなしたりゐなかいゑたつしはかきしてせむさいなと心とめてうへたりかせすゝしくてそこはかとなきむしのこゑ　くきこえほたるしけくとひまかひてをかしきほとなり人〻わたとのよりいてたるいつみにのそきゐてさけのむあるしもさかなもとむとこゆるきのいそきありくほと君はのとやかになかめ給てかの中のしなにとりいてゝいひしこのなみならむかしとおほしいつおもひあかれるけしきにきゝをき給へるむすめなれはゆかしくてみゝとゝめ給へるにこのにしおもてにそ人のけはひするきぬのをとなひはら

　くとしてわかきこゑともにくからすさすかにしのひてわらひなとするけはひことさらひたりかうしをあけたりけれとかみ心なしとむつかりておろしつれは火ともしたるすきかけさうしのかみよりもりたるにやをらより給てみゆやとおほせとひまもなけれはしはしきゝ給にこのちかきもやにつとひゐたるなるへしうちさゝめきいふことゝもをきゝ給へはわか御うへなるへしいといたうまめたちてまたきにやむことなきよすかさたまり給へるこそさう　くしかむめれされとさるへきくまにはよくこそかくれありき給ふなれなといふにもおほす事のみ心にかゝり給へはまつむねつふれてかやうのつゐてにも人のいひもらさむをきゝつけたらむときなとおほえ給ことなる事なけれはきゝさし給つ式部卿の宮の姫君にあさかほたてまつり給し歌なとをすこしほをゆかめてかたるもきこゆくつろきかましくうたすしかちにもあるかななをみおとりはしなんかしとおほすかみいてきてとうろかけそへ火あかくかゝけなとして御くた物はかりまいれりとはり帳もいかにそはさるかたの心もなくてはめさましきあるしならむとの給へはなによけむともえうけ給はらすとかしこまりてさふらふはしつかたのおましにかりなるやうにておほとのこもれは人〻もしつまりぬあるしのこともをかしけにてありわらはなる殿上のほとに御らむしなれたるもありいよのすけのこもありあまたあるなかにいとけはひあてはかにて十二三はかりなるもありいつれかいつれなとゝひ給にこれは故衛門督のすゑのこにていとかなしくし侍ける

をおさなきほとにをくれ侍てあねなる人のよすかにかくて侍也さえなともつきぬへくけしうは侍らぬを殿上なとも思ふ給へかけなからすか　くしうはえましらひ侍らさめると申あはれのことや此あね君やまうとの後のおやさなん侍と申ににけなきおやをもまうけたりけるかなうへにもきこしめしをきて宮つかへにいたしたてむともらしそうせしいかになりにけむといつそやものたまはせし世こそさためなきものなれといとおよすけの給ふふいにかくてものし侍なり世中といふものさのみこそいまもむかしもさたまりたる事侍らね中につゐても女のすくせはいとうかひたるなんあはれに侍るなんときこえさすいよのすけかしつくや君とおもふらむないかゝはわたくしのしうとこそは思ひて侍めるをすき　くしきことゝなにかしよりはしめてうけひき侍らすなむと申すさりともまうとたちのつき　くしくいまめきたらむにおろしたてんやはかのすけはいとよしありてけしきはめるをやなとものかたりし給ていつかたにそみなしもやにおろし侍ぬるをえやまかりおりあへさらむときこゆゑいすゝみてみな人〻すのこにふしつゝしつまりぬ君はとけてもねられ給はすいたつらふしとおほさるゝに御めさめてこのきたのさうしのあなたに人のけはひするをこなたやかくいふ人のかくれたるかたならむあはれやと御心とゝめてやをらおきてたちきゝ給へはありつる子のこゑにてものけ給はるいつくにおはしますそとかれたるこゑのをかしきにていへはこゝにそふしたるまらうとはねたまひぬるかいかにちかゝらむとおもひつるをされとけとをかりけりといふねたりけるこゑのしとけなきいとよくにかよひたれはいもうとゝきき給つひさしにそおほとのこもりぬるをとにきゝつる御ありさまをみたてまつりつるけにこそめてたかりけれとみそかにいふひるならましかはのそきてみたてまつりてましとねふたけにいひてかほひきいれつるこゑすねたう心とゝめてもとひきけかしとあちきなくおほすまろははしにね侍らんあなくらとて火かゝけなとすへし女君はたゝこのさうしくちすちかひたるほとにそふしたるへき中将の君はいつくにそ人けとをき心地してものおそろしといふなれはなけしのしもに人〻ふしていらへす也しもにゆにおりてたゝいままいらむと侍といふみなしつまりたるけはひなれはかけかねを心みにひきあけ給へれはあなたよりはさゝさりけり木丁をさうしくちにはたてゝ火はほのくらきにみ給へはからひつたつものともをゝきたれはみたりかはしきなかをわけいり給れはけはひしつる所にいり給へれはたゝひとりいとさゝやかにてふしたりなまわつらはしけれとうへなるきぬをしやるまてもとめつる人とおもへり中将めしつれはなんひとしれぬおもひのしるしある心地してとの給をとも

かくも思わかれすものにおそはるゝ心ちしてやとおひゆれとかほにきぬのさはりてをとにもたてすうちつけにふかゝらぬ心のほとゝみ給らんことはりなれとしころおもひわたる心のうちもきこえしらせむとてなんかゝるおりをまちいてたるもさらにあさくはあらしとおもひなし給へといとやはらかにの給ひておに神もあらたつましきけはひなれははしたなくこゝに人ともえのゝしらす心ちはたわひしくあるましきことゝおもへはあさましく人たかへにこそ侍めれといふもいきのしたなりきえまとへるけしきいと心くるしくらうたけなれはをかしとみ給てたかうへくもあらぬ心のしるへを思はすにもおほめい給かなすきかましきさまにはよにみえたてまつらしおもふ事すこしきこゆへきそとていとちいさやかなれはかきいたきてさうしのもといて給にそもとめつる中将たつ人きあひたるやゝとの給にあやしくてさくりよりたるにそいみしくにほひみちてかほにもくゆりかゝる心ちするに思よりぬあさましうこはいかなる事そとおもひまとはるれときこえんかたなしなみ　くの人ならはこそあららかにもひきかなくらめそれたに人のあまたしらむはいかゝあらん心もさはきてしたひきたれととうもなくておくなるおましにいり給ぬさうしをひきたてゝあかつきに御むかへにものせよとの給へは女はこの人のおもふらむことさへしぬはかりわりなきになかるゝまてあせになりていとなやましけなりいとおしけれとれいのいつこよりとうて給ことのはにかあらむあはれしるはかりなさけ　くしくの給つくすへかめれとなをいとあさましきにうつゝともおほえすこそかすならぬ身なからもおほしくたしける御心はへのほともいかゝあさくはおもふ給へさらむいとかやうなるきははきはとこそはへなれとてかくをしたち給へるをふかくなさけなくうしと思ひいりたるさまもけにいとをしく心はつかしきけはひなれはそのきは　くをまたしらぬうゐ事そや中　くをしなへたるつらにおもひなし給へるなんうたてありけるをのつからきゝ給ふやうもあらむあなかちなるすき心はさらにならはぬをさるへきにやけにかくあはめられたてまつるもことはりなる心まとひをみつからもあやしきまてなんなとまめたちてよろつにの給へといとたくひなき御ありさまのいよ　くうちとけきこえん事わひしけれはすくよかに心つきなしとはみえたてまつるともさるかたのいふかひなきにてすくしてむとおもひてつれなくのみもてなしたり人からのたをやきたるにつよき心をしゐてくはへたれはなよ竹の心ちしてさすかにおるへくもあらすまことに心やましくてあなかちなる御心はへをいふかたなしとおもひてなくさまなといとあはれなり心くるしくはあれとみさらましかはくちおしからましとおほすなくさめかたくうし

と思へれはなとかくうとましきものにしもおほすへきおほえなきさまなるしもこそ契あるとはおもひ給はめむけに世をおもひしらぬやうにおほゝれ給なんいとつらきとうらみられていとかくうき身のほとのさたまらぬありしなからの身にてかゝる御こゝろはへをみましかはあるましきわかたのみにてみなをし給ふのちせをもおもひ給へなくさめましをいとかうかりなるうきねのほとを思ひ侍にたくひなくおもふ給へまとはるゝ也よしいまはみきとなかけそとておもへるさまけにいとことはりなりおろかならす契なくさめ給ふ事おほかるへしとりもなきぬ人　くおきいてゝいといきたなかりける夜かな御車ひきいてよなといふなりかみもいてきて女なとの御かたゝかへこそ夜ふかくいそかせ給へきかはなといふもありきみは又かやうのつゐてあらむ事もいとかたくさしはへてはいかてか御ふみなともかよはんことのいとわりなきをおほすにいとむねいたしおくの中将もいてゝいとくるしかれはゆるし給ても叉ひきとゝめ給つゝいかてかきこゆへき世にしらぬ御心のつらさもあはれもあさからぬよのおもひいてはさま　くめつらかなるへきためしかなとてうちなき給ふけしきいとなまめきたり鳥もしは　くなくに心あはたゝしくて

つれなきをうらみもはてぬしのゝめにとりあへぬまておとろかすらむ女身のありさまをおもふにいとつきなくまはゆき心地してめてたき御もてなしもなにともおほえすつねはいとすく　くしく心つきなしとおもひあなつるいよのかたのおもひやられて夢にやみゆらむとそらおそろしくつゝまし

身のうさをなけくにあかてあくる夜はとりかさねてそねもなかれけること

ゝあかくなれはさうしくちまてをくり給ふうちもとも人さはかしけれはひきたてゝわかれ給ほと心ほそくへたつるせきとみえたり御なをしなとき給てみなみのかうらむにしはしうちなかめ給ふにしおもてのかうしそゝきあけて人　くのそくへかめりすのこの中のほとにたてたるこさうしのかみよりほのかにみえ給へる御ありさまを身にしむはかりおもへるすき心ともあめり月はあり明にてひかりおさまれるものからかけさやかにみえて中中おかしきあけほのなりなに心なきそらのけしきもたゝみる人からえんにもすこくもみゆるなりけり人しれぬ御心にはいとむねいたくことつてやらんよすかたになきをとかへりみかちにていて給ぬ殿にかへり給てもとみにもまとろまれ給はすまたあひみるへきかたなきをましてかの人のおもふらん心のうちいかならむと心くるしくおもひやり給ふすくれたることはなけれとめやすくもてつけてもありつる中のしなかなくまなくみあつめたる人のいひし事はけにとおほしあはせられけりこのほとは大殿

にのみおはしますなをいとかきたえておもふらむ事のいとおしく御心にかゝりてくるしくおほしわひてきのかみをめしたりかのありし中納言のこはえさせてんやらうたけにみえしを身ちかくつかふ人にせむうへにも我たてまつらむとの給へはいとかしこきおほせ事に侍なりあねなる人にのたまひみんと申もむねつふれておほせとそのあね君はあそむのおとうとやもたるさも侍らすこの二年はかりそかくてものし侍れとおやのおきてにたかへりとおもひなけきて心ゆかぬやうになんきゝ給ふるあはれのことやよろしくきこえし人そかしまことによしやとの給へはけしうは侍らさるへしもてはなれてうと　くしく侍れは世のたとひにてむつひ侍らすと申すさて五六日ありてこの子ゐてまいれりこまやかにをかしとはなけれとなまめきたるさましてあて人とみえたりめしいれていとなつかしくかたらひ給ふわらは心ちにいとめてたくうれしとおもふいもうとの君の事もくはしくとひ給ふさるへきことはいらへきこえなとしてはつかしけにしつまりたれはうちいてにくしされといとよくいひしらせ給かゝる事こそはとほの心うるもおもひのほかなれとおさな心ちにふかくしもたとらす御ふみをもてきたれは女あさましきに涙もいてきぬこのこのおもふらん事もはしたなくてさすかに御ふみをおもかくしにひろけたりいとおほくて

　みし夢をあふ夜ありやとなけくまにめさへあはてそころもへにけるぬる夜なけれはなとめもをよはぬ御かきさまもきりふたかりて心えぬすくせうちそへりける身をおもひつゝけてふし給へり又の日小君めしたれはまいるとて御かへりこふかゝる御ふみみるへき人もなしときこえよとのたまへはうちゑみてたかふへくもの給はさりしものをいかゝさは申さむといふに心やましくのこりなくのたまはせしらせてけるとおもふにつらきことかきりなしいておよすけたる事はいはぬそよきさはなまいり給そとむつかられてめすにはいかてかとてまいりぬきのかみすき心にこのまゝはゝのありさまをあたらしきものにおもひてついそうしありけはこの子をもてかしつきてゐてありく君めしよせてきのふまちくらししを猶あひおもふましきなめりとゑんし給へはかほうちあかめてゐたりいつらとの給ふにしか　くと申すにいふかひなのことやあさましとて又も給へりあこはしらしなそのいよのおきなよりはさきにみし人そされとたのもしけなくくひほそしとてふつゝかなるうしろみまうけてかくあなつり給ふなめりさりともあこはわか子にてをあれよこのたのもし人はゆくさきみしかゝりなんとの給へはさもやありけんいみしかりけることかなとおもへるをかしとおほすこの子をまつはし給てうちにもゐてまいりなとし給ふわかみくしけとのにの給ひてさ

うそくなともせさせまことにおやめきてあつかひ給ふ御ふみはつねにありされとこの子もいとおさなし心よりほかにちりもせはかろ　くしき名さへとりそへん身のおほえをいとつきなかるへくおもへはめてたき事もわか身からこそとおもひてうちとけたる御いらへもきこえすほのかなりし御けはひありさまはけになへてにやはとおもひいてきこえぬにはあらねとをかしきさまをみえたてまつりてもなにゝかはなるへきなとおもひかへすなりけり君はおほしおこたる時のまもなく心くるしくもこひしくもおほしいつおもへりしけしきなとのいとおしさもはるけんかたなくおほしわたるかろ　くしくはひまきれたちより給はんも人めしけからむ所にひんなきふるまひやあらはれんと人のためもいとをしくとおほしわつらふれいのうちに日かすへ給ふころさるへきかたのいみまちいて給ふにはかにまかて給まねしてみちのほとよりおはしましたりきのかみおとろきてやり水のめいほくとかしこまりよろこふこきみにはひるよりかくなんおもひよれるとの給ひ契れりあけくれまつはしならはし給けれはこよひもまつめしいてたり女もさる御せうそこありけるにおほしたはかりつらむほとはあさくしもおもひなされねとさりとてうちとけ人けなきありさまをみえたてまつりてもあちきなくゆめのやうにてすきにしなけきをまたやくはへんと思みたれてなをさてまちつけきこえさせん事のまはゆけれはこきみかいてゝいぬるほとにいとけちかけれはかたはらいたしなやましけれはしのひてうちたゝかせなとせむにほとはなれてをとてわた殿に中将といひしかつほねしたるかくれにうつろひぬさる心して人とくしつめて御せうそこあれと小君はたつねあはすよろつの所もとめありきてわたとのにわけいりてからうしてたとりきたりいとあさましくつらしとおもひていかにかひなしとおほさむとなきぬはかりいへはかくけしからぬ心はえはつかふものかおさなき人のかゝる事いひつたふるはいみしくいむなるものをといひおとして心地なやましけれは人〻さけすおさへさせてなむときこえさせよあやしとたれも　くみるらむといひはなちて心のうちにはいとかくしなさたまりぬる身のおほえならてすきにしおやの御けはひとまれるふるさとなからたまさかにもまちつけたてまつらはおかしうもやあらましししゐておもひしらぬかほにみけつもいかにほとしらぬやうにおほすらむと心なからもむねいたくさすかにおもひみたるとてもかくてもいまはいふかひなきすくせなりけれはむしんに心つきなくてやみなむとおもひはてたり君はいかにたはかりなさむとまたおさなきをうしろめたくまちふし給へるにふようなるよしをきこゆれはあさましくめつらかなりける心のほとを身もいとはつかしくこそなりぬれといと

くおしき御けしき也とはかりもののたまはすいたくうめきてうしとおほしたり

はゝき木の心をしらてその原のみちにあやなくまとひぬるかなきこえんかたこそなけれとの給へり女もさすかにまとろまさりけれは

かすならぬふせ屋におふる名のうさにあるにもあらすきゆるはゝ木ゝときこえたりこきみいと　くおしさにねふたくもあらてまとひありくを人あやしとみるらんとわひ給ふれいの人　くはいきたなきにひと所すゝろにすさましくおほしつゝけらるれと人にゝぬ心さまのなをきえすたちのほれりけるとねたくかゝるにつけてこそ心もとまれとかつはおほしなからめさましくつらけれはさはれとおほせともさもおほしはつましくかくれたらむ所になをゐていけとの給へといとむつかしけにさしこめられて人あまた侍めれはかしこけにときこゆいとおしとおもへりよしあこたになすてそとの給ひて御かたはらにふせたまへりわかくなつかしき御ありさまをうれしくめてたしと思ひたれはつれなき人よりは中　くあはれにおほさるとそ